

## 自己点検・評価での課題への対応

災害ボランティア活動支援センター

自己点検・評価での課題等 (令和5年1月実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等
基準番号：2-3 ○ 現状、当センターに関わる教員は数名であり、1人当たりの負担が大きい。 ○ 教員の定年退職や事務局職員の異動による委員交代の他、メンバーが固定化される傾向が見受けられる。センターの活性化、教員の負担の低減並びに活動の全学的な広がりを目指す見地から、規定で定められた任期（2年）ごとに、構成員の意見を反映しつつ円滑な交替を実現していくような運営を検討する必要があると考えられる。	任期（2年）ごとの交替を原則としつつ、部局の事情並びに構成員の意見を反映しながら、円滑な交替を実現できるよう運営する。
基準番号：3-1 ○ 教職員・学生への周知方法について、現在はホームページ、メール及び学生ポータルでの周知に限られており、SNS等を活用した多様な周知方法について検討する必要がある。	学生との情報共有については学生ポータルを原則としつつ、地域・社会への情報発信については、広報担当との連携を密にし、大学公式HPやフェイスブック、インスタグラムの活用法を検討していく。
基準番号：3-1 ○ 災害ボランティアは、危険性やボランティアの精神から大学が率先して行えない部分もある。地域貢献のボランティア活動を行う学生組織への支援を強化し、大学の地域貢献活動の一部に取り込めないか検討する必要がある。	事務局等と連携し、ボランティア活動に関連したサークル・学生等との意見交換の場を設定できないか検討する。

<p>基準番号：3-2</p> <p>○ 「災害ボランティア論」受講者数については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、減少傾向にあるため、受講者数の増加に向け、講義内容や周知方法等について検討する必要がある。</p>	<p>受講者数の減少要因は、平成30年度ごろまで続いていた共通教育科目の供給不足の改善とコロナ禍の影響と思われる。令和5年度には授業形態がコロナ以前の状況となると思われるため、5年度終了時の状況調査を行い検討する。</p>
<p>基準番号：3-5</p> <p>○ 成果やその効果等に関する情報は、災害ボランティア研修会等の実施報告に留まっているため、定型的な情報のみならずより詳細な成果等を地域社会に分かりやすく公表していく工夫が必要である。</p>	<p>災害ボランティア活動支援センター運営委員会の審議事案とし改善案を検討する。</p>
<p>基準番号：7-1、7-3</p> <p>○ センター会議やメールでの意見聴取等により、センター教員間の連携を促す機会を設けるようにしているが、実質的に議論する機会は少ないため、更なるセンター教員間の連携を強化していく必要性がある。</p>	<p>自己点検・評価で明らかになった課題について、災害ボランティア活動支援センター運営委員会での審議事案とし、情報共有と改善策の提案・実行を図る。</p>